

The background features a stylized mountain range in shades of pink and purple. The sky is a soft, light pink. Numerous white and light pink diamond-shaped petals are scattered throughout the scene, appearing to fall from the top. A white rectangular box with a thin purple border is centered in the lower half of the image.

皇后陛下の御親蚕

貞明皇后

明治初期より現在まで、皇后さまの御養蚕が紅葉山御養蚕所において連綿として続けられています。

天皇陛下の御稲作とともに皇后さまのご養蚕はわが国の農耕文化の象徴として重要な皇室行事となっています。

皇室における御養蚕は主に日本古来の蚕品種「小石丸」が、農業生物資源研究所ジーンバンク（北斗地区）から献上され飼育されています。

大正天皇の皇后陛下、貞明皇后さま（昭和天皇の生母、名は節子姫）は養蚕にご関心があったようで、青山御所において明治45年までは皇太子妃殿下として、大正2年からは皇后として、御親蚕（皇后御自ら蚕を飼育なさること）されました。

大正6年の春から、掃立式（今の御養蚕初の儀）と奉告祭（今の御養蚕納の儀）が行われるようになりました。この2儀において、皇后さまは神前に進んで親しく御拝されます。

貞明皇后さまは蚕糸・絹業を奨励し、養蚕・蚕糸を題材とした和歌を能くされました。またハンセン病患者を救うライ病の救済事業などにも尽力されました。

昭和26年（1951）崩御（66才）

美智子皇后陛下の御親蚕

明治4年に昭憲皇太后吹上御苑で始められた皇后陛下による御養蚕は「皇后御親蚕」という形で歴代の皇后陛下に受け継がれてきました。

皇后陛下は平成2年に御養蚕を引き継がれてから、毎年5月の初旬から「春蚕」飼育をなされます。

養蚕の作業は「桑摘み」「給桑」「上簇」「収繭」と多くの行程がありますが、皇后陛下は、お忙しいご公務の合間を縫ってあらゆる作業をなさっています。

御養蚕では、日本古来の「小石丸」、日中交雑種の「日137×支146」と欧中交雑種の「欧16×支16」の3品種が飼育されております。農業生物資源研究所では、毎年、皇后さまが飼育される小石丸の卵の保存と催青並びに蚕蛾の母蛾検査と後者2交雑種の卵の提供を行なっています。小石丸は明治38年、ときの皇太子妃で後の貞明皇后が東京蚕業講習所に行啓の折、たいそうお気に召されたと伝えられ、その折、種が献上され、それ以来飼育されています。



「皇居にある紅葉山御養蚕所」
(写真:宮内庁提供)



「桑園で桑摘みお作業をなさる皇后陛下」
(写真:宮内庁提供)



「稚蚕にご給桑をなさる皇后陛下」
(平成18年5月10日撮影 写真:宮内庁提供)



「壮蚕にご給桑をなさる皇后陛下」
(平成20年5月23日撮影 写真:宮内庁提供)



「条桑でご給桑をなさる皇后陛下」
(平成16年5月19日撮影 写真:宮内庁提供)



「ご上蔭をなさる皇后陛下とお蚕室」
(平成21年5月22日撮影 写真:宮内庁提供)



「藁蔀にご上蔀をなさる皇后陛下」
(平成17年6月10日撮影 写真:宮内庁提供)



「熟蚕を回轉簇へお移しになさる皇后陛下」
(平成21年5月22日撮影 写真:宮内庁提供)



「繭搔きお作業をなさる皇后陛下」
(平成21年5月28日撮影 写真:宮内庁提供)



「毛羽取りお作業をなさる皇后陛下」
(平成21年5月28日撮影 写真:宮内庁提供)



「回轉族から繭搔きお作業をなさる皇后陛下」
(平成21年5月28日撮影 写真:宮内庁提供)



「天蚕のタネが25粒ほど貼られた短冊状の和紙をクヌギの枝におつけになる皇后陛下」
(平成21年4月28日撮影 写真:宮内庁提供)



「天蚕のタネ」(右上)
(平成21年4月28日撮影 写真:宮内庁提供)



「「小石丸」繭を使用した「春日権現験記絵」(かすがごんげんけんきえ)
表紙裂(ひょうしぎれ)および「春日権現験記絵」の修復完成状況をご覧になる
天皇皇后両陛下」 (平成19年6月28日撮影 写真:宮内庁提供)

平成四年（一九九二年）

歌会始の儀」御歌

美智子皇后さま

葉かげなる天蚕（てんさん）は

ふかく眠りゐて

櫟（くぬぎ）のこずるゑ

風渡りゆく



「平塚場長(当時)からカイコの研究のご説明をお受けになる皇后陛下」
(昭和12年5月25日撮影 写真:農業生物資源研究所)



「平塚場長(当時)から繰糸作業の様子のご説明をお受けになる皇后陛下」
(昭和12年5月25日撮影 写真:農業生物資源研究所)



◆ 皇后さま、山つけ作業

皇后さまは2日、皇居内の野蚕（やさん）室で、飼育している野生種の蚕「天蚕（てんさん）」の卵がついた和紙をクヌギの枝に付ける「山つけ」の作業をされた＝写真、宮内庁提供＝。

天蚕はクヌギの葉を食べて育ち、緑色の繭を作る。皇后さまは「今年はクヌギの成長が早いだね」と語りながら、25粒の卵が付いた和紙を1枚ずつ枝にホチキスで留めていかれた。

皇居での養蚕は、昭憲皇太后が明治天皇の皇后時代に始め、歴代の皇后に受け継がれている。天皇陛下は来年4月30日に退位されるため、皇后としての養蚕は今年が最後になる。

おわり